

上記の2つ以外に担当されている大学院教育がございましたら、以下(3)、(4)にご記入ください(なお、さらに担当されている専攻・コースがある場合は、別の用紙に下記の質問項目を転記またはコピーの上ご記入ください)。

(3)

- ・研究科(院)名：〔 〕
- ・専攻またはコース名等：〔 〕
- ・課程(博士・修士・専門職大学院の別)：〔 〕
- ・標準修了年限：〔 〕 年
- ・取得できる学位：
(複数ある場合は主なもの2, 3)〔 〕
- ・学位論文の要否： () 要 () 否
- ・専攻またはコースの定員(一学年)：〔 〕 名
- ・専攻またはコースの在籍学生数(全学年)：〔 〕 名
- ・シラバスの有無： () 有り () なし

(4)

- ・研究科(院)名：〔 〕
- ・専攻またはコース名等：〔 〕
- ・課程(博士・修士・専門職大学院の別)：〔 〕
- ・標準修了年限：〔 〕 年
- ・取得できる学位：
(複数ある場合は主なもの2, 3)〔 〕
- ・学位論文の要否： () 要 () 否
- ・専攻またはコースの定員(一学年)：〔 〕 名
- ・専攻またはコースの在籍学生数(全学年)：〔 〕 名
- ・シラバスの有無： () 有り () なし

2-5	明示されている目的は広義の衛生学公衆衛生学分野の人材育成にあたり、適切とお考えですか。
	<input type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> まあ適切である <input type="checkbox"/> あまり適切でない <input type="checkbox"/> 適切でない

(4) (ご担当がない場合は、2-6へお進みください。)

2-1	<input type="checkbox"/> 明示されている <input type="checkbox"/> 明示されていない <div style="margin-left: 200px;"> <input type="checkbox"/> 現在明確化すべく検討中 <input type="checkbox"/> 検討されていない <input type="checkbox"/> 検討されているかわからない </div> <p>「明示されている」とお答えになられた方は2-2へ、明示されていないとお答えになられた方は(4)または2-6へお進みください。</p>
2-2	明示されている目的は、どの単位で明示されていますか。
	<input type="checkbox"/> 研究科(院) <input type="checkbox"/> 専攻 <input type="checkbox"/> コース <input type="checkbox"/> その他 []
2-3	明示されている目的について具体的にご記入下さい。
2-4	上記目的が記載されている文書は以下のどれですか。(複数回答可)
	<input type="checkbox"/> 学則 <input type="checkbox"/> 履修要項 <input type="checkbox"/> その他 []
2-5	明示されている目的は広義の衛生学公衆衛生学分野の人材育成にあたり、適切とお考えですか。
	<input type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> まあ適切である <input type="checkbox"/> あまり適切でない <input type="checkbox"/> 適切でない

2-6 広義の衛生学公衆衛生学分野の人材育成を考えた場合、他の専攻系と同じ目的の設定でよろしいとお考えですか。

- よい
 まあよい
 あまりよくない
 よくない

2-7 2-6で「あまりよくない」、「よくない」と回答された方にお尋ねします。
 衛生学公衆衛生学分野の人材育成に独自の部分はどのような点だとお考えですか。

【3】大学院生の選抜方法についてお尋ねします。

3-1 1-1でご記入いただいた各専攻またはコース等の学生の選抜方法を、ご記入ください（該当するところに○をご記入ください）。

	選抜試験における筆記試験	選抜試験における小論文	選抜試験における面接	特記事項
(1) 博士課程				
(2) 修士課程				
(3)				
(4)				

上記の(1)～(4)は設問1-1でご記入いただいた(1)～(4)に対応させてください。

3-2 上記以外の選抜方法を実施している場合は、具体的にご記入ください。

【4】大学院教育におけるコースワークについてお尋ねします。

4-1 1-1でご記入いただいた各専攻またはコース等のコースワークの有無について下表内にご記入ください。(コースワーク：学修課題を複数の科目を通して体系的に履修すること。通常、講義・演習・実験等の組み合わせから構成される。)

	コースワークの有無	「なし」と回答した場合の今後の設置予定
(1) 博士課程	() あり () なし	() あり () なし () 検討中
(2) 修士課程	() あり () なし	() あり () なし () 検討中
(3)	() あり () なし	() あり () なし () 検討中
(4)	() あり () なし	() あり () なし () 検討中

上記の(1)～(4)は設問1-1でご記入いただいた(1)～(4)に対応させてください。

4-2 前問でコースワーク「あり」と回答された方にお尋ねします。
コースワークを実施する上での工夫や御苦勞がございましたら、ご記入ください。

【5】大学院各研究科(院)、専攻等における修了要件、および成績評価基準の有無、等についてお尋ねします。

5-1 1-1でご記入いただいた各専攻またはコースの修了要件、成績評価基準の有無、等について下表内にご記入ください。

	修了要件	成績評価基準
(1) 博士課程		() あり () なし
(2) 修士課程		() あり () なし

(3)		() あり () なし
(4)		() あり () なし

上記の(1)～(4)は設問1-1でご記入いただいた(1)～(4)に対応させてください。

5-2 博士課程の学位審査の投票についてお尋ねします。
投票は記名式ですか、無記名式ですか。

() 記名式 () 無記名式

5-3 衛生公衆衛生分野の博士課程が属している専攻系の学位審査評価の方法・基準は、他の専攻系と同じですか。

() 同じ () 異なっている(5-6へお進み下さい)

5-4 前問で「同じ」と回答された方にお尋ねします。
衛生公衆衛生分野の博士課程が属している専攻系の学位審査評価の方法・基準が、他の専攻系と同じであることに、問題を感じていますか。

() 全く問題はない () おおむね問題はない
() やや問題がある () 大いに問題がある

5-5 前問で「やや問題がある」、「大いに問題がある」と回答された方にお尋ねします。
どのような問題を感じているのか、具体的にご記入ください。

5-6 5-3で「異なっている」と回答された方にお尋ねします。
どのような点が他の専攻系と異なっているか、具体的にご記入ください。

[]

5-7 衛生公衆衛生分野の大学院教育における、評価の実質化、評価プロセスの透明性
についてはどのようにお考えですか。以下に自由にご記入ください。

[]

【6】大学院教育における組織連携についてお尋ねします。

6-1 貴教室が担当されている大学院教育において行われている組織連携（学内の連携、
学外〔他大学、他施設等〕との連携）について列挙してください。

[]

【7】FD（ファカルティ・ディベロップメント）についてお尋ねします。

7-1 貴教室の教員を対象に最近（1～2年程度）実施されたFD（ファカルティ・ディベロップメント）について列挙してください。

FD名（またはFDの内容）	対象者 （全教員、教授、助教、大学院生（RA, TA）等）

【8】公衆衛生大学院についてお尋ねします。

8-1 平成17年9月に中央教育審議会より答申された「新時代の大学院教育－国際的に魅力ある大学院教育の構築に向けて－」（http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/05090501/all.pdf）においても、専門職大学院としての「公衆衛生分野の大学院」に関する記載があります。現在、貴大学では公衆衛生大学院の構想をお持ちですか。

- 既に設置している [関連資料がございましたら、お送り願います]
- 現在計画中 [8-2へお進みください]
- 設置の計画はいまのところない [8-3へお進みください]

8-2 前問で「現在計画中」と回答された方にお尋ねします。
差し支えない範囲で、どのような公衆衛生大学院を計画されているか、ご記入ください。
また、お送りいただける資料がございましたら、同封願います。

[Empty response area for question 8-2]

8-3 8-1で「設置の計画はいまのところない」と回答された方にお尋ねします。
設置の計画がない、あるいは難しい理由としてどのようなことが考えられますか。(複数回答可)

- 十分な入学者が見込めない
- 教員の確保が難しい
- 教室等、設備の確保が難しい
- 卒業生の進路の確保が難しい
- 財政面で厳しい
- 医(科)学系研究科(院)から外れてしまうことに抵抗がある
- その他 [以下に自由にご記入ください]

[Empty response area for question 8-3]

【9】社会人大学院生、留学生の受け入れ等についてお尋ねします。

9-1 1-1でご記入いただいた各専攻またはコースについて、貴教室内の学生のフルタイム大学院生および社会人大学院生は何名ですか（全学年）。

	フルタイム大学院生	社会人大学院生
(1) 博士課程	名	名
(2) 修士課程	名	名
(3)	名	名
(4)	名	名

上記の(1)～(4)は設問1-1でご記入いただいた(1)～(4)に対応させてください。

9-2 1-1でご記入いただいた各専攻またはコースについて、貴教室内の学生の外国人留学生は何名ですか（全学年）。また、差し支えなければ出身国別の内訳についてもご記入ください。

	外国人留学生	出身国別内訳
(1) 博士課程	名	
(2) 修士課程	名	
(3)	名	
(4)	名	

上記の(1)～(4)は設問1-1でご記入いただいた(1)～(4)に対応させてください。

9-3 貴大学の医(科)学系研究科(院)・博士課程において、今年度または昨年度の在学者数、社会医学系の在学者数、基礎医学系の在学者数（全学年）がおわかりになりましたら、ご記入願います。

平成〔 〕年度在学者数

博士課程在学者数：〔 〕名

社会医学系在学者数：〔 〕名

基礎医学系在学者数：〔 〕名、 臨床系在学者数：〔 〕名

【10】大学院教育における e-learning の導入状況についてお尋ねします。

10-1 1-1 でご記入いただいた各専攻またはコースについて、e-learning は導入されていますか。

(1) 博士課程	() 導入されている	() 導入されていない	() わからない
(2) 修士課程	() 導入されている	() 導入されていない	() わからない
(3)	() 導入されている	() 導入されていない	() わからない
(4)	() 導入されている	() 導入されていない	() わからない

上記の (1) ~ (4) は設問 1-1 でご記入いただいた (1) ~ (4) に対応させてください。

10-2 「導入されている」場合、具体的な導入事例について簡潔にご記入ください。

	e-learning 導入事例
(1) 博士課程	
(2) 修士課程	
(3)	
(4)	

上記の (1) ~ (4) は設問 1-1 でご記入いただいた (1) ~ (4) に対応させてください。

【11】 衛生公衆衛生分野の卒後生涯教育についてお尋ねします。

11-1 今後の衛生公衆衛生分野の卒後生涯教育について、以下に自由にご記入ください。

[Empty response area for question 11-1]

ご回答大学名 { }
教室名 { }
回答者 { }

※学則等、適切な資料がございましたら、ご同封ください。

*****ご協力ありがとうございました。*****

回答数 57大学 (国立: 27、公立: 8、私立: 22)

集計結果概要 [n (%)]

【1】担当している大学院教育について

	博士課程	修士課程
国立	27 (100.0%)	20 (74.1%)
公立	8 (100.0%)	5 (62.5%)
私立	22 (100.0%)	5 (22.7%)
計	57 (100.0%)	30 (52.6%)

【2】人材養成に関する目的について

明示の有無

	博士課程		修士課程	
	あり	なし	あり	なし
国立	26 (96.3%)	1 (3.7%)	20 (100%)	0 (0%)
公立	7 (87.5%)	1 (12.5%)	4 (80.0%)	1 (20.0%)
私立	16 (72.7%)	6 (27.2%)	3 (60.0%)	2 (40.0%)
計	49 (86.0%)	8 (14.0%)	27 (90.0%)	3 (10.0%)

【3】選抜方法について (博士課程)

	筆記試験あり	小論文あり	面接あり
国立	27 (100.0%)	6 (22.2%)	25 (92.6%)
公立	8 (100.0%)	2 (25.0%)	8 (100.0%)
私立	22 (100.0%)	7 (31.8%)	20 (90.9%)
計	57 (100.0%)	15 (26.3%)	53 (93.0%)

【4】コースワークについて

コースワークの有無

	博士課程		修士課程	
	あり	なし	あり	なし
国立	24 (88.9%)	3 (11.1%)	17 (85.0%)	3 (15.0%)
公立	6 (75.0%)	2 (25.0%)	3 (60.0%)	2 (40.0%)
私立	18 (81.8%)	4 (18.2%)	4 (80.0%)	1 (20.0%)
計	48 (84.2%)	9 (15.8%)	24 (80.0%)	6 (20.0%)

【5】成績評価基準について (博士課程)

成績評価基準の有無

	あり	なし・不明
国立	23 (85.2%)	4 (14.8%)
公立	4 (50.0%)	4 (50.0%)
私立	10 (45.5%)	12 (54.5%)
計	37 (64.9%)	20 (35.1%)

【6】公衆衛生大学院について

	設置あり	現在計画中	計画なし
国立	2 (7.4%)	3 (11.1%)	22 (81.5%)
公立	0 (0%)	0 (0%)	8 (100%)
私立	0 (0%)	1 (4.5%)	21 (95.5%)
計	0 (3.5%)	4 (7.0%)	51 (89.5%)

設置あり：東京大学、京都大学

計画なし、あるいは計画が難しい理由（複数回答可）

理由	十分な入学者が見込めない	教員の確保が難しい	教室等、設備の確保が難しい	卒業生の進路の確保が難しい	財政面で厳しい	医学系研究科から外れてしまうことに抵抗がある	その他
国立	15 (68.2%)	12 (54.5%)	5 (22.7%)	9 (40.9%)	8 (36.4%)	4 (18.2%)	4 (18.2%)
公立	4 (50.0%)	6 (75.0%)	4 (50.0%)	1 (12.5%)	4 (50.0%)	0 (0%)	3 (37.5%)
私立	13 (61.9%)	9 (42.9%)	4 (19.0%)	4 (19.0%)	5 (23.8%)	4 (19.0%)	7 (33.3%)
計	32 (62.7%)	27 (52.9%)	13 (25.5%)	14 (27.5%)	17 (33.3%)	8 (15.7%)	14 (27.5%)

【7】e-learningの導入について

	導入あり	導入なし
国立	8 (29.6%)	19 (70.4%)
公立	0 (0%)	8 (100.0%)
私立	3 (13.6%)	19 (86.4%)
計	11 (19.3%)	46 (80.7%)

(注) %の分母は各項目の有効回答数

回答会員数 77会員

【8】人材養成の目的が、他の専攻系と同じ目的の設定でよいか？

	よい	まあよい	あまりよくない	よくない
国立	5 (13.9%)	17 (47.2%)	7 (19.4%)	4 (11.1%)
公立	2 (15.4%)	5 (38.5%)	2 (15.4%)	3 (23.1%)
私立	3 (10.7%)	15 (53.6%)	6 (21.4%)	3 (10.7%)
計	10 (13.0%)	37 (48.1%)	15 (19.5%)	10 (13.0%)

【9】学位審査評価の方法・基準が、他の専攻系と同じであることに、問題を感じているか？

	全く問題ない	まあ問題ない	やや問題あり	大いに問題あり
国立	11 (30.6%)	16 (44.5%)	8 (22.2%)	1 (2.8%)
公立	4 (30.8%)	5 (38.5%)	4 (30.8%)	0 (0%)
私立	9 (32.1%)	15 (53.6%)	3 (10.7%)	0 (0%)
計	24 (31.2%)	36 (46.8%)	15 (19.5%)	1 (1.3%)

大学院に関するアンケート 結果概要記述部

◎衛生学公衆衛生学分野の人材育成に独自の部分はどのような点か

- 集団としての見方、予防の重要性、社会・法律とのかかわりなど衛生公衆衛生の独自性を持つ分野は多い。
- 研究者だけでなく職業人としての教育やトレーニングも必要。
- 集団を対象とすること及びそのために必要な方法論の修得を必須とすること。
- 社会的取組や制度に関わる提言に至る能力を重視すること及びそのための方法論を重視すること。
- Public health mind の育成を明記すべき。
- 統計学及び疫学的方法論の理解。
- 人の集団を対象とする研究の方法論（同意の取得、結果の還元を含めて）。
- precautionary principle の重要性の理解。
- wet lab を用いる基礎研究が中心の総合医科学や医科学の中では、疫学 etc 公衆衛生分野は非科学的という扱いを受けやすい。
- ミクロではなくマクロで物事をみる視点。
- 「予防」の視点。
- 「コミュニティ」の視点。
- 「ハイリスクアプローチとポピュレーションアプローチ」の視点。
- 社会との関わりの視点。
- 社会医学は臨床、基礎と対等の分野であるはず。
- 社会医学として貢献することを明記すべき。
- 社会医学の人材育成においては、やはり集団レベルでの健康事象の解明に役立つ疫学、統計学の教育が重要になると思います。
- 公衆衛生への貢献。
- 健康が社会・経済・文化的な現象であるとの生態学的認識に立って、その文脈的理解に必要な総合的な科学教育が必要であること。
- 一次予防、二次予防達成のためには「モノ」ではなく、システムの発想が求められること。
- 人々の生活の現場に密着した教育が必要であること。
- 疫学的方法論を修得することが必須であると考えます。
- 予防医学的手段、安全科学、マネジメントシステムに精通し、社会心理学及び経済学を理解して、企画、事務（サービス）、研究（数学）、評価を行うことができる人材の育成。
- 出来れば、日本の国際的位置から、語学力（英語力）をもって国際的活動が出来る

る人材の育成を目的とする。この点では、国際的に通用する master course を設けることが重要。

- Population, prevention, policy などの視点は life science を中心とする他専攻とは異なる独自の特性と考えます。
- 地域とのつながり、・臨床医療のみならず、保健や福祉など他分野との連携 に重点を置く人材育成が必要。
- 医師に関しては、公衆衛生医として地域で活動できるような教育が必要。
- 非医師に対しても、その関心分野・領域に対応する必要あり。"
- 「疫学」教育。
- 社会科学の視点。
- 予防の重視。
- 集団を対象。
- 組織的対応。
- 実践的研究を重視。
- 集団を対象とした際の独自の考え方を修得するべき。

◎衛生公衆衛生分野の博士課程が属している専攻系の学位審査評価の方法・基準に感じる問題

- 医学研究科の論文審査では、実験医学に関する研究がほとんどであり、疫学的手法を用いた研究は極めて少ない。
- 社会医学系では地域や職域をフィールドとした疫学研究を行う場合が多いが、これらに対する教授会構成員の評価は必ずしも高くない。
- 要件の1つに英文論文の公表（採択）があるが、和文論文の方が適切な状況もありうる。
- 実験系の審査員に疫学調査にもとづく科学論文に十分に理解を示さない者がしばしば見られる。
- 研究の目的、対象、方法論など異なる内容が多いため、他分野の委員が社会医学系の審査を行うにあたってはとまどいがあるように思われる。
- 専門が違う人間が社会科学を評価できるはずがない。
- 疫学論文の学位審査の際には必ずと言って良い程、否（×）の投票がある。
- 他の分野の教授の社会医学への理解不足。
- 社会調査内容だと医学論文として認められにくい傾向がある。
- 英語の原著論文は作りにくい。日本語でもよいという意見があるが、「公衆衛生雑誌」は査読で原著→資料、活動にされてしまって困る。
- ヒトを対象とした研究は、Originality、IF、CI だけではなく、priority、地域貢

献、世界の人々への貢献が重要である。

- 基準も同じである上に同じ会誌（研究科会誌）で、基礎、臨床の研究者も投票に参加し、かつ彼らが多数であるため、社会医学系の論文には低い評価が与えられたり、稀に否決されることすらある。
- 国際研修コースであり、コース院生は日本国籍以外であり今後の課題（現在2年目）。
- 質問票調査、インタビュー、1次資料を利用した2次研究などへの理解が得られにくいこと。
- 他分野の教員が、非実験系（おもに疫学）研究の論文審査をできない。
- 臨床医学・基礎医学系の教員が社会医学を理解していない。

II. 分担研究報告書

厚生労働科学研究費補助金（地域健康危機管理研究事業）
分担研究報告書

医師の卒前教育における公衆衛生学教育カリキュラムと
効果的な教育技術の開発（社会医学サマーセミナー）

分担研究者 中村 桂子（東京医科歯科大学准教授）

研究要旨 医学部・医科大学の学生に、社会医学の研究と実践についての理解を深めさせ、パブリックヘルスマインドの養成をはかり、社会医学（衛生学公衆衛生学）を専攻する動機づけを試みるために、また、教育手法の評価と教育スキルの向上のため、社会医学サマーセミナーを開催した。全国から 40 名の学生（含む大学院生）の参加があり、衛生学公衆衛生学教育協議会の教授陣および厚生労働省からの特別講師が講義・特別講演を行い、学生のグループディスカッション・プレゼンテーションを実施した。社会医学サマーセミナーは、現在の医学教育において社会医学の重要性や意義について学ぶ時間が減少しているなかで、所属大学に枠をこえ、社会医学系の教員が協力して社会医学に関心のある学生の教育にあたることのできる有効な場であり、参加学生のパブリックヘルスマインド養成に有意な効果をもたらすことが明らかになった。また、今年度より一部大学院生の参加もとりいれ、医学部医学科学生との交流を図ることで、より一層の教育効果が期待でき、社会医学に関する新たな教育手法の開発と教育スキルの向上にも寄与する可能性が示された。本セミナーは、将来の社会医学分野の医師確保に寄与することが期待される活動であることが明らかとなった。

A. 研究目的

医学部・医科大学学生、社会医学系大学院生を対象として社会医学サマーセミナーを実施し、社会医学の研究と実践についての理解を深めさせ、パブリックヘルスマインドの養成をはかり、医学生・大学院生への社会医学（衛生学公衆衛生学）専攻の動機付け、社会医学を念頭に置いた実地臨床医の養成、医学・医療に対する社会的要求への実践的な対応の動機付けを行うこと、および、これまでに開発した新しい教育手法の実施と評価を行うことを目的とした。

B, C. 方法と結果

第13回社会医学サマーセミナー

平成 19 年 8 月 24 日～26 日に奈良県葛城市ならびに奈良市において、大阪市立大学大学院 圓藤吟史教授・奈良県立医科大学車谷典男教授を世話人として開催した。

サマーセミナーには計 40 名の参加学生数を得た。全国機関衛生学公衆衛生学教育協議会、公衆衛生行政担当者等の 17 名が講師として参加した。さらに、厚生労働省から特別講師 4 名にご参加いただいた。セミナーの内容は、参加